

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1294400013		
法人名	株式会社 ハンドレッド		
事業所名	グループホーム はるかぜ		
所在地	〒270-1505 千葉県印旛郡栄町竜角寺台4-18-1 (電話) 0476-29-4777		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年2月14日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(平成21年2月10日事業所記入)

開設年月日	平成18年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤11人, 非常勤12人, 常勤換算13.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての全部		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	光熱水費19,000円
敷金	有(30万円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(敷金として)	有りの場合 償却の有無	有(期間:3年)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,480 円		

(4) 利用者の概要(2月9日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3	要介護2	6		
要介護3	6	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 80歳	最低	71歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北総栄病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは緑に囲まれた閑静な住宅地の中にあり、近くの公園にも程よく散歩に行ける環境にある。「家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、安全安心な介護を実現する」を理念とし、その実現に向けて全職員が取り組んでいる。この理念は事業所建物にも取り入れられ、明るく清潔で天井も高く、廊下や居室も広くて、利用者は手厚い介護を受けながら居心地良くゆったりと過ごしている。また、家族の同意のもとに、安全確保のためにモニター画像システムを活用しており、特に夜間の転倒防止等に威力を発揮している。家族はこのモニターで利用者の日頃の穏やかな暮らしぶりを見て一安心されており、当ホームは利用者家族等アンケートにおいても高い評価を受けている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度は設立1年後の調査だったこともあり、種々の指摘事項があったが、管理者、職員全員で課題改善に取り組み、事業所運営の安定化、サービスの質の向上をはかっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は代表が記載したものを職員が確認し作成した。評価結果に関わらず、毎日の運営の中で課題改善に取り組んでいるが、外部評価結果を職員、利用者家族に見てもらい、介護の現状を理解していただく等の活用を期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は6カ月に一度開催している。構成メンバーは行政代表、自治会、介護相談員、利用者家族等である。内容は入・退所者の状況や行事予定など、報告が主体であるが、参加者から出された意見はサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告は、家族の面会時や必要の都度こまめに行っている。また、サービスに対する意見・要望・苦情等に対応する仕組みがあり、事業所と町役場に苦情窓口を設けている。面会時に記入する「ご面会簿」の中に、家族からの不満・苦情・要望等を記載する欄が設けてあるが、不満や苦情は少ない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に参加し、職員が利用者とともに盆踊りやお祭りを見に行ったりして、地域との交流をはかっている。誕生会、敬老会の時などには地域ボランティアによる手品やハーモニカ演奏等が行われ、楽しんでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当グループホームの理念は「家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、安全安心な介護を実現すること」である。この理念のもとで利用者の有する能力に応じて個々の生き方を尊重し、安全に配慮した介護を行っている。	○	理念は、事業所の目指す姿を示すものであり、全職員が共有し自分の行動を振り返るためにも、見やすい場所への掲示を検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝実施する朝礼、申し送り、ミニカンファレンスの中で、理念や注意事項を徹底している。理念実践の心構えとして、「人には春風のように優しく、自分には秋の霜のように厳しく」という合い言葉を事業所内に掲示し、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に参加し、利用者とともに盆踊りやお祭りを見に行ったりして、地域との交流をはかっている。誕生会、敬老会の時などには地域ボランティアによる手品やハーモニカ演奏等が行われ、楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は代表が記述したものを職員が確認し作成した。課題の改善は評価結果に関わらず、毎日の運営の中で職員や代表から提起された事項についてきちんと取り組み、積極的に運営している。また、月1回、主任会議（管理者と職員出席）でも取り上げ、改善している。	○	外部評価を職員、利用者家族に見てもらい、介護の現状を理解していただく等の活用を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6カ月に一度開催している。構成メンバーは事業者、行政代表、自治会、介護相談員、利用者家族、近隣住民である。内容は、入・退所者の状況や行事予定などの報告が主体であるが、参加者から出された意見はサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を活発に行っている。行政の主催する会議や研修会、勉強会に参加し、口腔ケアや法律改正の説明を受け、事業所の運営に役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は面会時や必要の都度行っている。家族の訪問は多く、記録を見ながら利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。また、家族はモニター画像で面会時以外の利用者の顔の表情や暮らしぶりを知り、非常に安心している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスに対する意見・要望・苦情等に対応する仕組みがあり、事業所と栄町役場に苦情窓口を設けている。面会時に記入する「ご面会簿」の中に家族からの不満・苦情・要望等を記載する欄が設けてあるが、不満や苦情は少ない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は運営上、労務管理上必要に応じて実施しているが、介護を担当する主力メンバーは変わらないように配慮している。介護担当者が異動するときは、利用者及び家族に理解してもらい、必要な引き継ぎ期間を設けて利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に意欲的であり、行政が実施する研修や、社内研修、OJT等により、質の向上に努めている。資格取得にも積極的に挑戦させており、研修参加に要する費用（交通費、研修費等）を全額支給している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会に加盟し、代表、所長が年3～4回出席して交流している。また、連絡会で行う研修、フォーラム、講演会に職員を出席させて、同業者との交流を通じた質の向上をはかっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望する家族や本人の見学は日中いつでも受け入れている。入居の際には、本人、家族から病歴、家族関係、生活歴、趣味、性格などの情報を詳細に聴きとり記録し、これらの情報を参考にして、安心して馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のできることに、調理の準備、片付け、洗濯物たたみ、布団干し、ホーム内の掃除などを一緒にしながら、より良い関係づくりを築くようにしている。その関係の中で利用者の不安や喜びを感じ取り、支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が電話をしたいときは職員が代わり、また帰宅願望の時にはゆっくり話を聞くなどして、会話や生活の中から思いや意向を把握している。利用者家族等アンケートには「利用者、家族の要望も良く聞き、理解し対応してくれている」とのコメントも寄せられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は主に計画作成担当者が作成したものを、毎朝の職員とのミーティングや申し送りノートの情報、主治医からの診療情報を参考に最終策定している。介護計画は職員に回覧・共有して、利用者本位の介護を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6カ月に一度、定期的に見直している。その他、職員からの情報や通院時の医師からの情報をもとに必要に応じて随時見直している。随時見直しの項目としては、排泄、口腔ケア、転倒の予防等に関するものが多い。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院先への送迎や、地域からの介護に関する相談、介護支援専門員の新人研修等に快く応じている。また、訪問による理容、美容サービスを2カ月に一度行っており、利用者や家族から大変感謝されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診には看護師でもある所長が付き添い、診療・検査記録を受け取り介護計画などに活かしている。歯科医師の訪問診療が毎週あり、また、緊急時の受け入れ先として北総栄病院と提携している。今年度、地域の医師が訪問してインフルエンザの予防接種を実施し利用者や家族に喜ばれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応について、契約時に家族と話し合いしている。緊急時の連絡先、かかりつけ医の連絡先、対応方法について職員で共有し、連携をとりながら日々安心して過ごせるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、運営規定や契約書、重要事項説明書に明記している。個人の記録については鍵のかかるロッカーに大切に保管してある。また当ホームでは人権を尊重した介護を目指しており、トイレ誘導時などの言葉づかい、入浴時の羞恥心の配慮等には特に心配りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな過ごし方は、週間サービス計画表に基づいている。日々の暮らしについては画一的に同じことをするのではなく、身体を動かすのが好きな利用者には卓球を、手仕事の好きな利用者には袋物作りの支援をするなど、一人ひとりのペースや希望に沿って対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢者向けの食材業者を利用して、栄養やバランスに配慮した食材を取り寄せている。誕生日会には利用者の嗜好も取り入れ、利用者が赤飯やいなり寿司など作ることもある。外食は3カ月に一度程度あり、バイキング料理などを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、日曜日を除き朝から夕方まで利用できる。浴室は明るく、利用者毎に浴槽を洗い、お湯を入れ替えるなど清潔で、感染症対策にもなっている。石鹸やシャンプーは個人ごとの籠に入れて整理され、細やかに心配りされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る力を損なわない支援を心がけ、調理準備や、片付け、掃除などを役割分担している。手芸や編み物、折り紙、カラオケの他、3カ月に1回程度ボランティアが訪れたり、季節行事として豆まき、イチゴ狩りなどを行い、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出に支障がない天候の時には、利用者の安全や生活リズムを配慮しながら、時折近隣の風土記の丘や地域の公園に出かけている。しかし、人員の関係で十分な支援は出来ていないように思われる。	○	利用者家族等アンケートでは外出の機会を増やして欲しいとの意見がある。気軽に出かけられるような支援の検討をお願いしたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関は施錠していない。しかし当ホームはバス通りの近くにあり、利用者の安全を考慮してリビングから玄関へ通じる戸は施錠してある。暗証番号で開錠できるようになっており、家族に番号を教え訪問できるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者7名が死亡した長崎のグループホームの火災発生事故を教訓に、当ホームは安全を重視し、スプリンクラーやモニター画像システム、消防署との通報システムを設置している。防災訓練を検討中であり、代表は防火管理者の資格を取得し、防災に役立てようとしている。	○	防災のハード面の対策は十分だと思われるが、災害対策計画を策定し、昼夜を想定した防災訓練の実施の検討をお願いしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養摂取やバランスは食材宅配業者の週間献立表によって配慮している。食べた量や水分量の摂取はバイタルサインチェックとともに詳細に記録され、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が共有部分も含め利用者や職員にとって機能的で明るく、開放的である。採光や換気にも十分配慮されている。壁面を飾る絵画も森林や溪流が描かれ、落ち着いた雰囲気である。建物の周囲には樹木も多く、居心地良く暮らせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は約6.5畳、小さなベランダもあって広く感じる。利用者が使い慣れた家具や、好みの小物、飾り、仏壇、家族の写真、麻雀が出来るテーブル・椅子が持ち込まれ、畳を敷いて布団で就寝している利用者もおり、自分らしく過ごせるようになっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。